

第13回「日本人学生の『アジア体験』コンテスト」 実施報告

【開催日時】 2012年11月17日（土）9：00～12：45
【会場】 共立財団日本語学院（湯島ビル 2F）
【後援】 文部科学省
外務省
産経新聞社
【協賛】 株式会社 共立メンテナンス

昨年より応募者が減少しましたが、29名の応募者があり、一次選考で企画書を評価し、16名に絞りました。

11月17日8名ずつの2グループで二次選考の面接選考会をグループごとに実施しました。企画者は8名の集団面接に参加しました。

審査委員5名による選考がおこなわれ、「夢・アジア体験賞」の入賞者5名を選考しました。

■グループ面接の様子



面接会場の様子

集団面接の後、審査委員5名による慎重な選考の結果、ラオス2名、インドネシア2名、ミャンマー1名の入賞者を決定し、各自が企画書に沿った体験をしてくれることを期待します。

■授与式の様子



審査委員長講評



「夢・アジア体験賞」授与



授与式の様子

また、惜しくも「夢・アジア体験賞」を逃した学生たちには「奨励賞」が贈られました。



奨励賞授与

■ 授与式・入賞者 5 名と企画概要

※企画書の一部を抜粋しています。

①阪本 絢子 東京大学 農学部 環境資源科学課程 緑地生物学専修 インドネシアで熱帯雨林の再生とオラウータン保護活動の実態調査（インドネシア）

私は、インドネシアにおける大規模伐採等による森林消失後の植林、そしてオラウータン保護活動の実態とそれに付随して地域住民へもたらされる経済的効果について調査を行いたいと思います。インドネシアには 1950 年代に石油が発見されたことをきっかけに、熱帯雨林の大規模伐採が行われ、結果として草地と化し、オラウータンの生息地を奪うことになってしまった地域が多くあります。

この地域を訪問し、主に以下のアクターから話を伺いたいと考えています。1) BOS 財団の職員、2) Samboja 村の住民、3) BOS 財団のオラウータン保護プロジェクトに関わるコンサルタント会社の社員、4) この地域で働く他の NGO (WWF など) の職員です。

こういったヒアリングを通して、Samboja の植林・オラウータン保護事業の課題と長期的な展望を多角的に考察すると同時に、この事業が実際にどれくらい地域住民に利益をもたらしているのかについて理解を深めたいと思います。そして、この実態調査で得た経験を帰国後周りの人々に伝えることで、少しでも熱帯雨林の再生とオラウータン保護活動を身近に感じてもらい、関心と呼ぶきっかけになればと考えます。

②伊東 真未 慶応義塾大学 看護医療学部 看護学科 インドネシアの若者に対し、STI 予防啓発をする（インドネシア）

私は将来、医療者として開発途上国などで国際協力活動をし、世界の医療や保健水準の向上、特に女性の心身の健康の増進に貢献したいと思っている。大学 2 年生のときは、大学のサークル活動の一環で、インドネシア・スマラン市の売春宿街に行き、売春宿街で働くセックスワーカーたちに STI (Sexual Transmitted Infection: 性感染症) の予防啓発をした。私は、セックスワーカーたちの STI 感染予防をするためには、その顧客となり得るインドネシア市民、特に若者に対しても STI 予防啓発をする必要があると感じた。そのため、私は以下を企画し、実施・体験したいと思っている。

インドネシアの学校では十分な性教育がなされていない。インドネシアはイスラム教信者が約 75% を占めるため、性に関する事柄はタブー視されている部分がある。不十分な性教育しか行われない中で欧米の文化が入ってきたことにより、正確でない性の知識を持っている若者が多く、かつ若者の性行動の低年齢化が進んでいる。インドネシアの若者に性に関する正確な知識提供が必要であると考えた。

- ・目的 インドネシアの若者を対象に STI 予防啓発キャンペーンを行う。
- ・目標 インドネシアの若者が STI の症状や予防法を知ることができる。

①売春宿街の視察

顧客の年齢層、セックスワーカーの STI 感染率、どのような STI が流行しているか、などを調査する。

②売春宿街スタッフや現地の医学生とともにニーズ把握のためのディスカッションをする

売春宿街のスタッフや現地の医学生の協力を得て、どのような戦略でキャンペーンを行うかを考える。同時にリーフレットやポスター・横断幕の作成を行う。

③インドネシア市民を対象に、STI 予防啓発を目的としたキャンペーンを実施する

STI の症状や予防法がわかるリーフレットを市民に配布する。リーフレット配布数の目標は 3000 枚とする。

③河野 好恵 兵庫県立大学 大学院 経営研究科 専門職課程経営 ミャンマーにおける宇宙ビジネスの可能性（ミャンマー）

—宇宙ビジネスとは？—

宇宙ビジネスとは、宇宙の資源を利用した産業である。宇宙ビジネスには既に馴染みのあるロケットや衛星の製造開発や人工衛星を利用した放送・通信・気象事業などだけでなく、宇宙用に開発した技術を一般に転用するスピンオフ製品や宇宙を題材にした映画やアニメ、教育、観光などが存在している。

—目的—

宇宙ビジネスについて様々な角度から調査・分析し、宇宙ビジネスの可能性を探る。今回は特に宇宙ビジネスのグローバル展開や新興国における宇宙ビジネスの可能性について検証する。インターネットや文献調査では入手できない産業の実状や宇宙への考え方、更に文化や国民性などの最新情報を入手するため現地調査を行う。

—方法—

主に視察とインタビューにより調査を行う。

- ・ミャンマーに進出している日本企業の現地工場・事務所を見学とインタビュー
- ・日本に進出しているミャンマー企業の見学とインタビュー
- ・ミャンマーの農業の現状を視察
- ・ミャンマー航空宇宙工科大学の見学とインタビュー

④室谷 麻美 金沢大学 大学院 人間社会環境研究科 国際学専攻 ラオス、ヴィエンチャン特別市ブンカム中高等学校での日本語教育支援 ～現地生徒の日本語上達・日本への理解促進、及び自身の成長を目指して～（ラオス）

私は 16 歳のころから日本語教師を目指しており、実際に、日本国内、中国で日本語教師として働いた経験は今までなのですが、大学 1 年の夏に石川県ユネスコ協会青年部が実施するベトナム・カンボジアスタディーツアーでカンボジアの日本語教室（寺子屋のようなもの）に参加した時に、私自身の知識の足りなさや、現地の人の持つニーズがうまく把握できていなかったこと等があり、私自身が思い描いていた程、現地の人の役に立つことができなかったことが今でも記憶として色濃く残っていました。また、いつか東南アジアの日本語教室（大学のような設備が整った高等機関ではなく、寺子屋のような学校）で日本語を教える経験ができれば、きっとあの時の経験や反省を活かし、現地の人の役に立てるのではないかと考えてきました。

世界各地で実施されている様々な教室、環境状況等を実際に知ることは必要だと感じますし、その事を通して、私自身の今後目指すこととなる「日本語教師像」も変わってくると思います。

ヴィエンチャン空港から60～70km、車で1時間の距離にあるブンカム中高等学校で開講されている日本語教室に参加する予定です。

学校に通うほとんどの生徒は農家出身で、当初は農家出身生徒の識字率向上を目的にこの学校が作られましたが、最近では、生徒約30名に対し、現地在住日本人により日本語も教えられ始めています。現地ブンカム区に日本人が2人生活していることを考えても、これからも継続して日本語が使える環境であり、生徒の生活に日本語や日本が身近なものであることから、日本語教育の意義は大いにあると考えます。

⑤西岡 悠美子 東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 国際協力学専攻 ラオス南部サラワン県ファイホン村住民の伝統布製品の世界中への普及活動（ラオス）

■ 目的・趣旨

- ラオス人民民主共和国（以下ラオス）南部サラワン県ファイホン村を訪問し、現地住民と共に活動を行い時間を共有する事で農民の皆様との絆を築き上げ、一生涯のアジア体験をする
- ◇ 学部時代より対象としてきたラオスを再度訪問し、国への理解をより深いものとする
- ◇ ラオスを象徴する「農村」を訪れ、農民の人々と交流をすることで、生涯の繋がりを築く
- ◇ 現地で活動する日本人との交流を通じ、国を繋ぐ仕事に関する自分なりの信念を創る

- 村の持続可能な発展に寄与する機会として、布製品の世界中への普及活動に協力する。特に、自身の得意分野である「ラオス語」「フィールド調査」「インターネット」を生かし活動を行う
- ◇ 周辺国に比べ経済発展が緩やかなラオスが、最適な発展を遂げることに貢献する
- ◇ 農民が元から築いてきた女性組織による伝統布製品を活かすことで歴史や文化を守る
- ◇ インターネットを通じて、日本を始め、世界中（特にASEAN域内）へ布製品を発信する

■ 現在までの活動状況と本企画開催までの準備

- 事前調査1 ※既に終了しているものです
- ◇ 時期：2012年9月下旬
- ◇ 場所：サラワン県ファイホン村、サバナケット県パクセー市
- ◇ 内容：関連組織とのコネクションを築き上げ、現地の雰囲気をつかんできた。村に常駐する青年海外協力隊員や村の女性組織18名のうちの姉妹2人とも連絡先を交換した
- 事前調査2 ※今後、自費で渡航を予定しているものです
- ◇ 時期：2012年11月初旬～中旬
- ◇ 機関：2週間程度
- ◇ 場所：ファイホン村、ヴィエンチャン首都、バンコク市内
- ◇ 内容：
 - ・本格的に村の人と交流を行いつつ、フィールドワーク調査を実施
 - ・ラオスハンディクラフトフェスティバル参加と視察
(http://www.laohandicraftassociation.com/wordpress/aboutlhf/lhf2012_jp/)
 - ・渡航途中で経由するタイでも視察を行い、ラオスへの汎用性がないかを探る



後列左より：西岡 悠美子さん、河野 好恵さん、室谷 麻美さん、阪本 絢子さん、伊東 真未さん
企画書番号 ⑤ ③ ④ ① ②

前列左より：石塚 庸平 運営委員長、村田 秋良 審査委員、本田 一男 審査委員、越前谷 明子 審査委員長、北原 賢三 審査委員